



●第3回子どもフォーラム●

外国にルーツを持つ青年たちからのメッセージ



●吉川春香 (慶応大学大学院生)

5月12日に開かれた「第3回ふくしま子ども多文化フォーラム」では、福島・宮城・山形・新潟県にある8つの継承語教室の子どもたち（保育園児と小学生）49人による文化発表に続いて、第二部で青年たち4人によるリレートークが行なわれた。

現在の日本社会において、外国にルーツを持つ人びとが増加している。しかし当事者の子どもたちにとっては、同じ立場の、特有の悩みを相談できる先輩に巡り合う機会がなかなかない。そこで、子どもたちのロールモデルたりうる青年たちに、外国にルーツを持つことで良かったことや困ったことなどをアドバイスしてもらった。

◆Aさん

大学生。中学生の時に来日、日本の東北地方で暮らす。両親とも中国。

中学生の時に日本に来て以降、ボランティアの方々から、日本語や教科の学習支援を受けてきた。その恩返しとして、大学生となった現在は教える側として学習支援に参加している。後輩にあたる子どもたちに対し、「人間の考え方は、人それぞれいろいろなものがあります。自分と考え方が似ている人とは、仲良くなれます。違う

考え方をすると会ったとき、それは成長のチャンスです」とアドバイスしてくれた。

◆Bさん

大学生。中学生の時に来日、日本の関東地方で暮らす。お母さんが中国。

日本に来たばかりの頃は日本語が話せず、「その時が人生で一番つらい時期だった」という。しかし努力を重ね、学習支援を受けつつ東京の理系の大学に合格。日本に来たばかりの子どもたちに対し、「日本語力を向上させるには、とにかく日本人と話すこと」「それにはやはり、言葉づかいだけでなく、普段からテレビなどをよく見て、年齢が近い人たちの文化、流行を把握することが大切だ」とアドバイス。

◆Cさん

高校生。日本生まれ、日本育ち。お母さんが中国、お父さんが日本。

お母さんが外国から来た、いわゆる「ハーフ」だが、そのことを周りに話すと「日本人だと思っていた」と驚かれる。顔立ちは日本人に見えるため、ハーフということに実感が沸かない。「どうして自分はハーフなのだろう

う」と考えていた。困ったこととしては、母が間違っ  
て覚えた日本語をそのまま覚えてしまったり、他の同級生  
が「日常的に使っていて、自然と身に着けている」現代  
文の単語を知らなかったりしたことである。そのぶん中  
国語や中国の文化、そして国際問題に関心を持てるよう  
になったことが良かった、と言う。

#### ◆Dさん

社会人。6歳の時に韓国から来日、日本育ち。両親と  
も韓国。

6歳まで日本と韓国を行き来し、小学校からは日本の  
東北地方でずっと暮らしてきた。小学校に上がった時、  
日本人の友達の輪の中になかなか入れなかった。（本人  
いわく）あまり性格が強くない、打たれ弱い子どもだっ  
た。意地悪な同級生から、からかわれ続けた。同じ外国  
人の子どもでも、コミュニティに属している子は性格が  
強く、反撃できるようだったが、Dさんは逃げるしかな  
かったと言う。小学6年生までは本名を使っていたが、  
中学生になったら日本風の通名を使い始めた。中学でも  
いじめはあったものの、少し状況は良くなった。高校で  
は、外国にルーツがあることを隠していたので、周りの  
友達に「俺たち、日本人だよな」と言われると、自分の  
ルーツを言い出せなかった。

Dさんは親世代に対して、子どもの立場から伝えたい  
こととして、次のように言う。日本の学校には必ずいじ  
めっ子がいる。子どもの様子を見て、元気がなかったら  
その危険を察知してほしい。親は、自分の国の文化的価  
値観から「やられたらやり返せ」と言うが、それができ  
ない子もいる。たたかうことができない子どもだった  
ら、別の学校に行くことも選択肢に入れてほしい、と。

#### ◆会場からの質問と応答

外国出身のお母さんの質問—「自分にも日本と中国の  
ハーフの子どもがいるが、『ハーフ』という言い方に違  
和感を覚える。『半分しかない』のではなく、『二倍（の  
文化を身に着けている）ダブル』ではないか考える。  
皆さんはさまざまな困難を乗り越えてきたと思うが、外  
国につながりがあることで、良かったことはある？」

Bさん、「日本語と中国語を両方話することができるこ  
と。現在、旅行会社のコールセンターのアルバイトをし  
ているが、自分よりも中国語がうまい日本人も、日本語  
がうまい中国人もいないので、活躍できている」

Aさん、「就職活動の時、外国語能力を評価される。  
他にも、大学の授業で討論する時、日本人以外の考え  
方を同級生に伝えることができる」

Cさん、「二つの文化を学ぶことができる。視野を広  
く持つことができる。母が中国語を教えてくれていたの  
だが、小学校の時に嫌になって止めてしまった。けれど

も中学で、先生に『二つの国の言葉や文化を学ぶことが  
できるのは素晴らしいこと』と言われ、もっと勉強して  
おけばよかったと後悔した」

Dさん、「幼稚園の時、日本語を話せなくて苦労し  
た。その経験があるからこそ、留学生が困っている時に  
助けてあげられるようになった」

外国出身のお母さんからの質問—「日中対抗のバレー  
ボールの国際試合をテレビで見っていた時、子どもから  
『日本と中国、どちらを応援するの？』と聞かれたこと  
がある。自分としては日本を応援したい気持ちも、中国  
を応援したい気持ちも両方ある。自分が『外人』だと思  
うことはある？」

Aさん、「皆と違うことをした時にそう感じる。同級  
生との討論の授業でも、他の人がなかなか何も言わな  
い中で、自分だけは意見を主張する」

Bさん、「外国人という言葉が、自分に対して実感  
がない。アルバイトをしていた時、からかわれて『你好』  
と言われた時は腹が立ったが、友達から『中国語が話せ  
るなら、台湾の案内してよ』と頼まれるなど、得をした  
ことも結構ある。スポーツは、競技によってどちらを  
応援するか決める」

司会者からの質問—「思春期の途中から日本に来たA  
さんとBさんは、学校の勉強に追いつくためにはどのよ  
うな工夫をしたの？」

Aさん、「2カ月ほど日本語支援を受けた後は、ず  
っと3年間日本語を勉強しながら、授業の勉強も同時にし  
ていた」

Bさん、「日本の受験は、中国の受験と比べるとやさ  
しいので、日本語さえしっかり勉強すれば突破できると  
考えて、がんばった」

外国出身のお母さんからの質問—「外国出身の親につ  
いてどう思っていますか？」

Dさん、「父親が車を運転している時、車線変更して  
合流する際に、強引に出る傾向がある。そういうことが  
少し嫌だった」

Cさん、「中学生の時は、母のことがきらいだった。  
中国のお母さん同士が集まると、声が大きくてうるさい  
のがいやだった。母と喧嘩もたくさんした。だけれど、  
日本文化を学ぼうと一生懸命だったり、努力している母  
の姿を見てきたので、今は大好き。うまく言葉にできな  
いけれど……」

#### ◆司会者としての評価と反省

ふだん子どものことを理解したいと思っても、なか  
な直接聞くことができない外国出身の親たちの疑問が、  
少しでも解決する契機になったのではないかと思う。特  
にDさんの経験は、自分の気持ちをなかなか主張できな

い性格の子どもの声を知る貴重な機会になったと思う。

司会者の反省としては、子ども側からの質問を得ることができなかったことである。特に思春期である小学高学年や中学生以上の子どもは悩みも多くなるが、子どもフォーラムに出演してくれた継承語教室の子どもたちは

中学生以上になると部活動で忙しくなり、参加が難しくなる。今後は、フォーラムに来られない子どもに対しても、また遠方に住んでいる場合でも、事前にメールやLINEなどで受け取りが可能な方法で、聞いてみたいことを投稿できる仕組みを作ったら、とも思った。

## “Half” or “Double” ? ～My identity～

### ●小島 薫 (高校生)

私は、中国と日本のハーフということが嫌でした。理由は、日中関係がとても悪かったからです。特に小学校3、4年の時は、毎日のようにテレビで放送されていました。そしてよく友達に言われました。「中国って汚いし、危ないよね。」そのとき私は、「うん。そうだね。」としか言えませんでした。

私の母は、私に中国についてたくさん教えてくれました。文化や生活習慣、民族、そして歴史など、たくさんのことを学び、そして日本との違いを肌で感じました。母は、私に中国を好きになってもらいたかったそうです。しかし私は中国を好きにはなれませんでした。そしてある日、私は母に「どうして私は中国のハーフなの。純粋な日本人として生まれたかった。中国については、もうこりごり。絶対に中国に住まないし、もうどうでもいいの。」と怒鳴りました。母は悲しそうな顔をして、少し笑って言いました。「うん、そうだね、少し強引だったね。ごめんね。でもね、将来きっとどこかで役に立つから。もし興味が出たら、いつでも教えるよ。」中学生の時、その言葉の意味がようやく分かりました。

中学生の時、私は英語部に所属し、また担任の先生が国際関係に詳しく、よく授業で国際関係のことについて学びました。そのおかげで、英語が好きになり、世界について知りたいとどんどん思いはじめました。その先生は、私に言いました。「もし日本語、中国語、英語が喋れるならば、すごいことだよ。身近に中国語や中国の文化を教えてくれる人がいるのはとてもラッキーなことだよ。」私はその時、本当にもったいないことをしたと心から思いました。それからは、母が教えてくれる中国語や、中国の文化などしっかりと受け止め、国際社会で活躍できるような人間になれるように頑張っています。

世間では、国際結婚をし、その間に生まれた人を「ハーフ」と呼びます。私は、「ハーフ」という言葉が嫌です。なぜなら、「ハーフ」という言葉は、半分が外国人という意味になってしまうからです。ですので、私は、「ハーフ」の代わりに「ダブル」という言葉を使いたいです。半分ではなく二つの文化をもっているということを強調したいです。そして、これからグローバル社会となっていく、たくさんのダブルの人々が出てくるでしょう。私はその人たちに、自分が他の人と違うところがあっても、みじめに思う必要はない。自分を認めて、好きになってもらいたい。二つの文化を持つことは、素敵なことだということを伝えたいです。

私は、中国と日本という二つの文化を持つことができ、とても幸せです。私のことを支えてくれた人たちに感謝しています。特に母には感謝しきれないし、とても尊敬しています。慣れない国で私を産み育てていることはもちろん、震災の後、日中ハーフ支援会を作り、たくさんの人を助けたり、私のような中国のダブルの子に中国の文化や言葉を教えたりし、中国に親近感を持たせてくれました。日中関係がとても悪いというだけで、中国が嫌いになって、周りからの目を気にしていた私は助けられました。今もなお日中関係は良いわけではないです。しかし、中国と日本は、私の大切なふるさとです。日中関係が悪いことは、とても悲しいです。将来私は、日中関係がよくなるように頑張りたいと思います。

\*これは、2017年9月、二本松市で開かれた福島県国際理解教育ネットワーク主催の「ふくしまグローバルセミナー2017」での小島薫さん(上記リレートークのCさん)の発言原稿です。



## 9月から新学期

●福島サロン 木曜クラス(毎週木曜日午前 10~12 時/EIWAN 活動スペース)

土曜クラス(第二・第四土曜日午前 10~12 時/EIWAN 活動スペース)

●白河サロン (月2回/日曜日午後 2~4 時/マイタウン)

◆蓬萊子ども日本語教室(毎週金曜日午後 3~7 時/EIWAN 活動スペース)

\*初めて参加される方は、電話 080-8215-1556 か、メール eiwan311@gmail.com に連絡ください。

## 白河サロン「からふる食堂」



白河サロンの2018年からふる食堂は、1月もちつき、2月カレー(日本)、3月ベジタリアン用料理、4月お花見、5月焼きそば(日本)、6月焼き肉まん(中国)というメニューであった。

特に印象的なのは、ベジタリアン用料理である。オーストラリア出身のベジタリアンの学習者が、「高野豆腐はどうやって料理しますか?」と質問したところ、中国出身の学習者が「おでんが一番おいしい」と答えたことから、実際にからふる食堂で作ってみよう、という話になった。

「おでんの素」には、魚からのダシが入っているため使えない。昆布やしいたけからダシをとる、という本格的な料理となった。ベジタリアン用おでんと、通常のみれや、はんぺんなどが入ったおでんを作ったが、ベジタリアン学習者からは、「調理器具も別々にしてほしい」という要望があった。調理を手伝っていた中国出身学習者は、最初は「面倒くさいなあ」とは言っていたものの、「どうしてベジタリアンになったの?」「家族もベジタリアンなの?」など質問することにより、お互い

をより理解する良い機会になったようだ。

普段は個々にプリントなどで日本語を勉強している日本語サロンであるが、からふる食堂のような機会を通して、勉強以外でコミュニケーションをとってお互い学べるような場面を増やしていきたいと思う。

●吉田絢子 (EIWAN運営委員)

## 須賀川「つばさ」のバーベキュー大会



6月3日、晴。須賀川市の大滝川公園のバーベキュー場は、歓声に包まれた。「つばさ~日中 HALF 支援会」が主催、EIWANが後援したバーベキュー大会。参加者は、生まれて半年の赤ちゃんから年寄りの方まで、中国出身者や日本人、32名。

バーベキューをしながら話も弾んだ。高校生が大学進学問題を先輩に聞いたり、中学生が悩んでいる部活のことは、親たちで意見交換。最後は、みんな一緒にミニ運動会と協力ゲームをして、楽しく終了。

EIWANから支援があって参加者の負担が軽減され、また子どもの賞品も豊富になり、とても充実した一日でした。

●小島 梓 (「つばさ~日中 HALF 支援会」代表)

\*\*\*\*\*

## 福島移住女性支援ネットワーク (EIWAN)

〒960-8055 福島市野田町2-3-2 神野ビル3F東 (JR 福島駅西口から徒歩7分)

電話 080-8215-1556 メール eiwan311@gmail.com

ホームページ <http://gaikikyo.jp/shinsai/eiwan>

フェイスブック <https://www.facebook.com/eiwanfukushima>

**送金先** 郵便振替口座番号: 00920-0-144820

口座名称: 福島移住女性支援ネットワーク

\*\*\*\*\*